



全日本自治団体労働組合  
北海道本部  
〒060-0806 札幌市北区  
北6西7北海道自治労会館  
電話 011-747-3211  
FAX 011-700-2053  
編集・発行 谷川 広美

# 道政奪還ならず・組織内道議12人が勝利

## 「179のできる」地域で実践



「未来を担う子どもや孫たちのためにも元気な北海道にしたいと訴えてきたが、力が及ばなく残念だ」と話す木村としあきさん=4月10日合同選対本部



北海道第17回統一自治体選挙合同選挙

政権交代後、初の統一自治体選挙となった知事選を頂点とする前半のたたかいが終了し、連合北海道や自治労道本部が推せんする木村としあきさんが敗北、現職に3期目を許す結果となった。道議選は全国的な退潮傾向の中でも、民主公認・推薦あわせて40議席(うち自治労組織内12人)を確保した。同日行われた札幌市長選挙では、上田文雄さんが3選を果たした。

今回の統一自治体選挙は、3月11日に発生した東日本大震災への復興支援の最中ということもあり、自粛ムードの中でのたたかわれた。

知事選では、私たちが推せんした木村としあきさんが積極的かつ果敢に命を守る。また、地域

たかいたいを展開したが、残念ながら現職の圧倒的強さに敗北した。

総括運動は今後の課題となるが、木村としあきさんが訴えた、地域医療の再生や防災対策、脱原発を柱とする「道民の生命を守る」。また、地域

### 道議選組織内 厳しいたたかい 新人2人が初勝利



率直に当選できてうれしい。しかし、今の噴火湾の状況を見ると、一刻も早く働かなければならない。渡島の代表として地域のためにしっかりと仕事をしていく。



知事奪還できなくて残念だが大事な役割果たさなくてはならない。皆さんの思いを道政の場で形にし、新人でも臆することなく頑張りたい。

### ともに行動する 首長・議員が必要!

北海道に必要な政策である。

統一自治体選挙後半戦が4月24日投票まで行われる。自分たちの生活、一番身近な課題を問う重要な選挙である。

私たちは政策を理解し、ともに行動する首長・議員を増やすことが重要だ。医療、介護、雇用、産業振興などの地域課題に加え、東日本大震

災と福島第1原子力発電所事故で、住民の生命をいかに守るのかという大きな課題が問われることに直面している。住民との協働・参加で、民主的な地方自治をつくるためにも直接地方自治の現場で働く私たち自治労の組合員が積極的に関わることには言うまでもない。

後半のたたかいは、東日本大震災復興支援とともに、市町村長・議員選挙で「地域から北海道を変える」と、木村としあきさんが訴えた政策に自信と確信を持って、自治労に結集する組合員の奮闘で、組織内、推薦首長・議員候補の勝利にむけて、引き続き全力をあげて取り組もう。



青森空港に到着した第1グループ15人=4月10日

3月30日に決定された「自治労復興支援活動計画」に基づき、北海道本部の第1グループが4月10日岩手県宮古市に出発し、すでに、支援活動がはじまっている。全国から支援に駆けつけた自治労組合員は247人。当面、第8グループまでの活動が決まっている。(関連記事2面)

※「支援活動報告」は道本部ホームページに掲載中。

### 自治労の復興支援活動 岩手に出発!

### 東日本大震災 支援カンパ実施中!

東日本大震災支援カンパの取り組みにご協力をいただきましてありがとうございます。

3月14日から、組合員1人1000円を目標に支援カンパを取り組み4月15日の第2次集約で11,259,491円を集約しました。

このカンパ金は、4月18日付で自治労本部に送金しました。今後、自治労中央執行委員会にて用途を決定します。引き続きのご協力をお願いします。

第3次集約日は、4月28日です。
第1次集約 8,685,043円
第2次集約(4/15現在) 11,259,491円
道本部 集約計 19,944,534円

### JICHIRO スケジュール

4月	23日(土) 東日本大震災(自治労復興支援活動)第3グループ派遣(～5月1日岩手県・宮古市)
24日(日)	市町村長・議員選挙投票日
25日(月)	第16回執行委員会(札幌市)
25日(月)	25年目のチェルノブイリデー記念講演会(札幌市)
26日(火)	25年目のチェルノブイリデー市民集会(札幌市)
30日(土)	東日本大震災(自治労復興支援活動)第4グループ派遣(～5月8日、岩手県・宮古市)
5月	1日(日) 第82回全道メーデー大会(札幌市)

道本部ホームページ

自治労北海道 ユーザー名:hokkaido  
組合員専用ページは パスワード:jichi2009

### 参加しよう! 第82回全道メーデー大会

5月1日(日) デモ行進はありません

☆キャッチボール教室(8:30～10:00 会場/中央区・資生館小学校) プロ野球選手会メンバーの指導による子どもたちとの交流

☆オープニング(10:00～10:40/札幌市・大通西8丁目広場)

☆大会式典(10:45～11:40/札幌市・大通西8丁目広場)

## 臨時・非常勤等職員の処遇改善、雇用安定を! 法改正を求める200万人署名 最終集約5月27日(金)

### 自治労目標130万筆 道本部集約 4/18現在 50,044筆

東日本大震災 自治労の復興支援活動

# 地元紙「岩手日報」のインタビュー受ける

3月30日に決定した「自治労の復興支援活動計画」に基づき、第1陣として北海道本部から第1グループ15人の組合員が4月10日、岩手県にむけて出発した。

この支援活動は、当面6月5日を一区切りとする予定で第8グループまでの派遣活動が決まっている。毎回、全国の自治労組合員約2500人が被災3県4班（岩手班・福島班・宮城北部班・宮城南部班）に分かれて活動する。おもな内容は、被災者の支援・救援を行う自治体職員・組合員の業務の支援。

第1グループ活動中には、深川市職労・赤川

「岩手日報」 2011年4月13日付記事

**自治労支援団 宮古で活動 職員負担軽減へ**

自治労の復興支援団は宮古市に入り、地元職員の負担を軽減するため避難所運営や救済物資の仕分けをしている。6月まで活動する。

支援団は北海道、秋田、青森、奈良など7道府県の自治体職員50人。宮古市役所や避難所計10カ所で活動する。



避難住民に衣類を手渡す北海道から来た自治労の復興支援団員（右）

仕分けをし、教室から体育館への避難場所移動を手伝った。

北海道深川市職員の赤川勝司さん（50）は「私たちが仕事をする中で、地元職員が少しでも通常業務をしてもいい。それが被災者を含め住民サービスの向上につながる」と意欲を見せる。宮古市職員労組の沢田郁治書記長は「休んでいない職員が多い中、本当に心強い」と感謝していた。

勝司さんが地元新聞社「岩手日報」の取材を受け13日同紙に掲載された（右・「岩手日報」提供）。

第1グループは17日

活動を終了し、すでに第2グループ15人が16日から活動を始めている。

この支援活動の内容は、機関紙で随時報告し

ていく。また、道本部ホームページでは、ほぼ毎日、現地（道本部役員）から送られてくる支援活動報告を写真とともに

## 厳しい時だからこそ「団結」



職場だより

【空知地本発】 赤平市職員労働組合では、昨年11月26日「組合冬の交流会」を開きました。

交流会は、組合員・職員が一堂に会する恒例行事でしたが、赤平市が財政再生団体転落の危機にあった2年前から実施を見送ってききました。

この間、287人いた組合員は、大量の早期退職・退職不補充で197人に激減。また、再生団体転落回避・財政健全化のため、賃金等30%の削減も余儀なくされました。

交流会再開については、中央委員会でも議論を重ね、「再生団体転落を回避したが、交流会を再開する時期ではない」と、各職場から賛否両論の意見が出されました。最終的には、「厳しい時だからこそ、組合員の団結を深めることが必要」との意見を尊重し開催を決定。

内容は、中央委員が各職場でアイデアを募り、誰もが気軽に参加できる、軽スポーツ大会と、組合員・職員・家族交流会の2部構成としました。

3年ぶりの再開当日は、約150人が参加。かつてのようなにぎわいとまではいかないまでも、参加率は休止前よりも若干上昇。希望の再開だと実感しました。また、職種や職場を越えて一堂に会する唯一の場であったことを改めて思い起こし、これまで、組合員同士が顔を合わせ、お互いの立場を理解・尊重しながら団結を深めていく機会が、不足していたこと

を反省させられました。多くの犠牲により、最大の危機を回避したものの、病院経営の健全化など、赤平市は大きな課題を抱えています。この交流会をきっかけに団結を一層深め、困難を乗り越えて行こうと考えています。（赤平市職労副委員長・入沢克司）



ジュースの早飲み競争をする子どもたち



組合員同志が顔あわせることが大事と実感した交流会

### シリーズ 子ども・子育て新システム VOL.9

## 子ども手当の再構築望む



現行の子ども手当については9月まで延長されても震災復興財源との関わりにおいて10月以降の継続が困難なようです。

しかし、「子ども・子育て新システム」基本制度案要綱においては、「一時預かり」「妊婦健診」「地域子育て支援」などともすべての子ども・子育て家庭を対象にした基礎給付として位置づけられています。

また、個人の選択により子ども手当の一部を給食費として学校に支払うことや、一時預かりの利

用券として給付することなど、現金給付と現物給付の組み合わせが可能なしくみを検討することとされています。

この場合、手続きや給付管理が煩雑になることは明らかであり、そもそも学校給食は無料化すれば済むことではないでしょうか。

「子ども・子育て新システム」法案化に向けた議論や、税と社会保障の一体改革の議論を経た中で、子ども手当がより良い制度として再構築されることを強く望みます。

震災関連のテレビ番組で、避難所の炊き出しを手伝う子どもの姿や親を亡くした2歳の子がおぼ



石狩市職労の菅原さんと渡部さん

に掲載中。組合員が奮闘する姿は必見！下記参照

**「宮古からの報告」はHPで！**

道本部ホームページでは、「自治労の復興支援活動」に参加している北海道の仲間が現地「宮古市」で奮闘する姿を、毎日アップしています。ぜひご覧ください。

自治労北海道

単組・組合員専用ページ ユーザー名:hokkaido パスワード:jichi2009

〔☆支援活動報告〕の見出しに注目！  
4月10日から毎日掲載しています。

**いらぬ原発！ 変えようエネルギー政策！**

記念講演会

◇日時 4月25日(月) 18:00～20:00  
◇場所 かでの2・7 1F かでのホール（札幌市中央区北2条西7丁目）  
◇講演 演題「福島原発事故を考える～原発政策の誤り」  
講師 美浜・大阪・高浜原発に反対する大阪の会代表 小山英之さん

市民集会

◇日時 4月26日(火) 11:00～(市内デモ行進12:00～)  
◇場所 札幌大通公園西6丁目広場  
◇コース 大通西6丁目～北海道電力まで（北電前でシュプレヒコール解散予定）

**おーさかさんの国会だより** 逢坂誠二

3月11日午後、東日本大震災が発生しました。まさに未曾有の大災害です。地震と津波により原子力発電所が機能不全に陥り、未だに被害が拡大しています。

**地域のため全力で働く姿に感謝**

被災地では役所役場機能が大きく低下しています。総務大臣政務官として自治機能の回復にむけ、被災地を回りましたが、目を覆うばかりの惨状です。こうした中、自治体職員

皆さんは、寝食を忘れて住民生活の安定にむけた活動をしています。自身も被災者である職員も多数いますが、地域のために全力で働く姿に感謝の念でいっぱいです。

また全国からの自治体職員の応援もあり、被災地の皆さんが全力で復興にむかうことができるよう、私も政府の一員として最大の努力を進めます。

（4月14日東京にて）

## 忙中余話

東日本大震災の復興支援の真実を見た中、北海道知事選挙が終わった。再び高橋道政の4年が続き結果となった。木村俊昭さんの「産業文化を地域から世界にむけて発信する町づくり」「未来を担う子どもたちが愛着を持てる町づくり」と

あちゃんと遊んでいる姿などを見て、あらためて未来を担う子どもたちは地域で安心して暮らせる社会を今の大人たちが真剣に選択しなければ、私事だが、期待と不安でいっぱい妊婦生活もあと2カ月。突然の産休（5月12日から）・育児を温かく受け入れてくれる職場のみんなの理解と協力、職場環境に本当に感謝。復職した際には、仕事と生活の調和をとりながらまたがんばっていききたい。（高山 智子）